硫 黄 鳥 島

〇概況（平成 18 年２月）

18 日に海上自衛隊、23 日に気象庁がそれぞれ行った観測によると、従来からみられていた弱い噴気が認められた程度で、火山活動に特段の変化はありませんでした。

18 日に海上自衛隊第１航空群が上空から行った観測及び、23 日に気象庁長崎海洋気象台の観測船が海上から行った観測によると、島の北側に位置する硫黄岳火口（図１、図３）付近と島の中央部に位置するグスク火山火口（図１、図４）で弱い白色噴気が確認されました。各火口の噴気の状況は、今年１月 27 日に海上保安庁第十一管区海上保安本部が行った観測時と比べて特段の変化はありませんでした。

なお、気象庁気象研究所と東京大学地震研究所が共同で実施している地震観測によると、期間中の地震活動には特に異常はありませんでした。

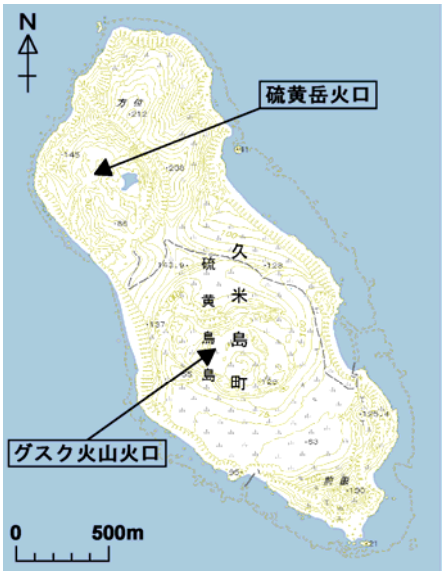

図１　硫黄鳥島　火口の位置図

図２　硫黄鳥島　全景（２月 18 日）

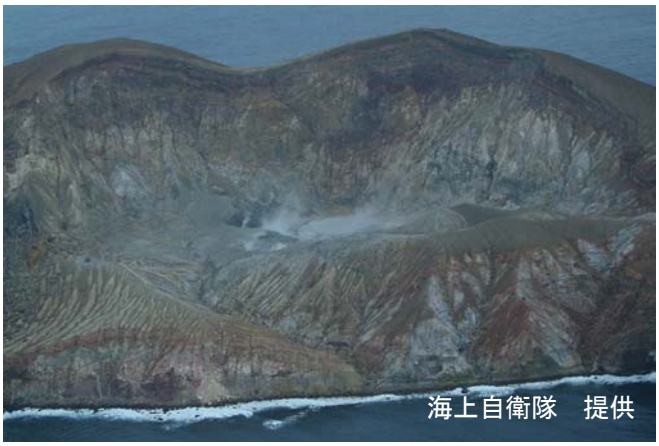

図３　硫黄鳥島　硫黄岳火口（２月 18 日）

図４　硫黄鳥島　グスク火山火口（２月 18 日）

※本資料は気象庁のほか、海上自衛隊第１航空群、海上保安庁第十一管区海上保安本部及び東京大学のデータ等も利用して作成しています。

本資料中の地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『25000 分の 1 地形図』を複製したものです（承認番号：平 17 総使、第 650 号）。